

聖霊降臨の主日

2014.6.8

使徒言行録 2・1-11

一コリント 12・3b-7、12-13

ヨハネ 20・19-23

今日、私たちが祝う聖霊降臨の祭日は、クリスマスと復活祭に並んで、教会の一年の典礼の暦の中で最も大切な祝祭日です。

教会が年毎に祝うこれらの祝祭日は、聖書に語られている、いわば過去の出来事を単に記念する祭りに過ぎないのではありません。これらの祝祭日は、そこで祝われる出来事が、神によって私たちの世界にもたらされている、私たちのための救いの出来事として祝う、キリスト教の信仰の祭りです。

クリスマスは二千年前のユダヤのベツレヘムの町に、救い主イエス・キリストがお生まれになったという、聖書が語る歴史的な出来事を記念する祝いだけではありません。クリスマスの祝いは何よりも、神の御子であるお方がインマヌエルとして、私たちが生きるこの現実の世界の中に、私たちと同じ一人の人間となってお生まれくださったことを祝う祝いです。洗礼を受けて、教会に伝えられてきた信仰をもって、クリスマスの祝いを喜び祝い始めたときから、私たちの人生の日々は、その中に私たちの救い主イエス・キリストがともにいてくださる日々となったのです。

復活祭の祝いは、十字架につけられて死に、葬られたイエスが三日目に復活されたという聖書が語る出来事を過去の出来事として記念し、祝うだけではありません。十字架の上に死んで、墓に葬られたイエスの復活は、私たちこの世に生きる者にとって逃れることの出来ない死の闇を打ち破って、この世の生に付きまとうもろもろの理不尽な矛盾の彼方に、神が備えてくださる、永遠のいのちの世界があることを示しています。そのような真のいのちへの道を切り開くために、イエスは人となられ、私たちのこの世の生の苦しみを引き受けて十字架につけられ、復活されたのです。そのことによって、私たちの人生は、今や天に昇って、父なる神の右の座についておられる復活の主が開いてくださった、復活の約束の光のもとにある、あらゆる絶望に打ち勝つ希望の人生とされたのです。このことへの信仰による、喜びに満ちた感謝の祝いが教会の復活祭の祭りです。

今日のミサの第一朗読として聞いた「使徒たちの宣教」・使徒言行録には、イ

イエスの昇天の後に、イエスの約束の言葉を信じて一つに集まって祈っていた弟子たちの上に、不思議な現象を伴って聖霊が降った、聖霊降臨の出来事が語られています。聖霊に満たされた弟子たちはその力を受けて、イエス・キリストの証人とされ、イエス・キリストへの信仰を力強く宣言し始めます。その弟子たちの宣教のことばを理解し、イエス・キリストへの信仰に導かれた人々によって、最初の教会が誕生した有様を今日の第一朗読は告げています。

けれども、先にも述べたように、今日祝う聖霊降臨の祝いは、聖書が語る、教会のはじめにおけるイエスの弟子たちへの聖霊降臨の出来事を祝うだけではありません。

新約聖書の中で四つの福音書の後に置かれている「使徒たちの宣教」・使徒言行録にはイエスの復活と昇天の後の、イエスに派遣されて使徒となった弟子たちの活動を記されています。その弟子たちの宣教の働きは使徒言行録の冒頭に語られている聖霊降臨によって開始されます。けれども、聖霊の働きはそれをもって終わっているわけではありません。使徒言行録には、ペトロやヨハネといった教会のいしずえとなった使徒たちや、ステファノやフィリッポなどの最初の教会の助祭たち、さらには、その中ほどから登場する、使徒言行録の中心的人物とも言えるパウロの働きが記されています。けれども、使徒言行録全体の中心テーマはこれらの人々の個々の活動を報告することにあるではありません。むしろ、これらの人々の働きを導いたのは聖霊降臨の日に弟子たちの上に降った聖霊であるということこそが、その中心テーマなのです。福音書の真の主人公がイエス・キリストであるように、福音書に続く使徒言行録の真の主人公は、イエスの約束に基づいてイエスの弟子たちから始まる最初の教会の上に、そしてその教会のメンバーとなった一人ひとりのキリスト者の上に注がれた神の霊、聖霊なのです。使徒言行録に語られているこのような聖霊の働きに対する信仰が教会の歴史を生み出し、それを導いて来たのです。

聖霊降臨に始まる、イエス・キリストへの信仰を宣言する教会の宣教の歩みは、聖霊の導きのもとに二千年の歴史を越えて、このような現代社会の現実を生きる私たちの心の扉をも打ち開き、一人ひとりの私たちを、イエス・キリストを信じる信仰によって生かされ、結ばれている教会の一員としているのです。聖霊降臨の祝いは、このように、私たち一人ひとりにイエス・キリストを信じるキリスト者として生きる道を開き、可能にして下さった聖霊なる神への、信仰による感謝の祝いです。

教会の信仰を生きる私たちは、改めてどこかに私たちの救い主の誕生を求めて、さまよい歩く必要はないのです。永遠のいのちを願って、復活の主との確かな出会いをどこかに求める必要はないのです。新たな、未知の聖霊の降臨を

どこかに求める必要もないのです。

教会がその典礼において祝う祝いは、二千年の教会の信仰の伝承を支え、生かしてきたキリスト教の信仰の祝いです。それゆえに、今日私たちはカトリック信者としての、私たち一人ひとりの信仰の本源に関わる出来事として、聖霊降臨の祝日を祝っているのです。この祝日を祝う私たちは、信仰の本源に立ち戻って、このような現実を生きる私たちが、今も教会の中に働く聖霊によってカトリック教会の信仰に導き入れられ、その信仰によって生きるものとされたことを、新たな気づきの中で、大いなる感謝をもってともに喜び祝い合いたいと思います。

カトリック高円寺教会
主任司祭 吉池好高